

「2022年度国立台湾大学スプリングスクール派遣参加報告書」

京都大学工学部2年 川端大司

今回のプログラムでは、自分の中国語能力を大きく向上させることができた。プログラム参加前には単語を聞き取るのも精いっぱい、自分から中国語を話すなど考えられなかったが、参加後には簡単な文であれば自分から話しコミュニケーションをとれるまで成長した。現地では3週間にわたり午前中に中国語の授業があったが、それ以外にも台湾大学の学生に授業で習った表現を使って話しかけてみたり、相席した人にあえておすそめを聞いたりするなど、自分から意識して中国語を話す機会が多かったからだと思う。プログラム参加前も中国語を学習していたが、参考書や教科書で意味や発音を「見て」覚えることしかしてこなかった。語学では自分で発音することが上達の鍵になると痛感すると同時に、これからの学習に活かしていきたいと思う。

現地でのプログラムでは、中国語の授業以外にも、現地のガイドさんと一緒に観光地を訪れる Cultural Visit や、台湾大学の教授による台湾の文化や歴史についての講義 Exploring Taiwan Course などがあり、台湾について様々な角度から学べるよう工夫されていた。自由時間もかなりあり、仲良くなった学生や先生とご飯を食べに行ったり、遊びに行ったりすることもできた。

プログラム中は台湾大学の学生が SA (Student Assistant) として授業のサポートに入ってくれたが、みな英語が流暢で衝撃を受けた。学生たちと話す中で、彼女たちは将来の自分の進路をしっかりと考えていたり、自分の考え方を持っていたりしていることに気づいた。また、このプログラムに参加した京大生は国際的な交流に関心がある人が多く、京大には多種多様な留学プログラムがあるということや、留学生との交流会があるということを知ってくれた。自分が知らない情報もよく知っていて、今まで受動的であった自分を反省するとともに積極的に情報を手に入れることが大切だと感じた。このようなプログラムを通じた人との出会いも、刺激的な体験となった。

今回のプログラムは、自分の進路にも大きな影響を及ぼした。今までは漠然と将来エネルギー関係の勉強をしたいと考えていたが、そこに外国語の習得や海外との交流も組み合わせることで、理解が深まると同時に自分も大きく成長できると考えるようになった。具体的には、海外大学院への進学やダブル・ディグリー制度の利用、交換留学などを検討してみようと思う。将来海外で勉強したいと考えるようになったことが、中国語や英語の学習を進めるモチベーションに繋がった。今後もこのモチベーションを大切にしたいと思う。